賢者の心得

総合政策学部長
大橋（おおはし） 正和（まさかず）

「賢者は歴史に学び、愚者は体験に従う」という有名な言葉がある。

体験は、「百聞は一見に如かず」ということわざのように重要な行為である。最近は、インターンシップなど様々な体験学習が行われている。大学から世の中に旅立つ卒業生諸君は、社会の中でこれから様々な体験をする。しかし、この言葉の意味は、賢者は、自分の体験や考えばかりで物事を理解するのでなくその原因や背景や世の中の変容などを考えて自分の経験や体験を普遍化することにより共通の原理や法則を見つけ出す事だと言うことです。ここでいう歴史は、日本史、世界史など様々な体系をさすのでなく世の中の出来事を普遍化した代表としての学問を指している。実際には、歴史を見る眼も年代順ではなく大学では課題別や地域別、問題別など様々な見方をすることを学ぶ。経済学や法学も同じで学問体系の中で専門部分を深く学ぶことになる。学問の体系は、何々学と言われる学問も実際には様々に分化している。このような研究の方法は、全体を部分に小分けにしてさらに部分を深く研究し元に戻すことによって全体がわかるというような方法でありこれを還元主義という。近代科学の基本的な考え方の一つである。還元主義が成り立つのはおのおのの要素が独立で関係が線形の場合であるがわかりやすい考え方のため世の中の仕組みの基本は還元主義的考え方で成り立っている。二〇世紀になってから還元主義では解決のしようのない問題が起こってきた。特に、二〇世紀の後半になってからその傾向は顕著になった。卒業生諸君は、このような変容が激しい世の中に出て活動をしなければならない。高校までの体系づけられた教育の基礎の上に大学での自律的に学び学習する能力を元にしてこの変容の社会を理解し自分の体験をふまえて新しい社会を築く気構えで活躍されんことを切望する。